

むすんで ひらいて

第56号
発行日
令和6年9月

発行：福井市地区社協連絡協議会
〒910-0018 福井市田原1丁目13-6 フェニックス・プラザ1階
(社会福祉法人 福井市社会福祉協議会内)
TEL 0776-26-1853 FAX 0776-26-9109

◆福井市社協のホームページからバック
ナンバーをご覧ください

福井市地区社協会長 情報交換会を開催

テーマ

「小さな関心でつながる安心」

～地域共生社会とこれからの見守り活動～



7月8日(月)、市内の地区社協会長を対象として情報交換会を開催しました。当日は、38名の参加があり、講師の富山短期大学健康福祉学科教授 関好博氏より、地域での見守り活動についてご講義いただき、見守り・見守られるということについて考えました。

「見守りとは、少しの変化に気づけるような関わり方を自分なりに行うことであり、決して見張りをすることということではありません」とのお話があり、実際に声かけする上での伝え方や相手の話の聴き方など、地域で見守り活動をする際の実践的な方法について、学びを深めました。

その後、グループに分かれ意見交換及び情報交換を行いました。今回は「ブレインライティングシート」という、アイデアを書くシートを用いて、それぞれが今感じている課題を記入し、その課題に対してグループのメンバーが解決に向けたアイデアを書き込んでいくという「声を出さない意見交換」を行いました。参加者からは「今までにないやり方で、多くの人の意見を聞くことができた」「自分の考えをまとめる上でも、とても有用だった」「地区でもぜひ活用したい」といった声が多く聞かれ、日頃の見守り活動について改めて振り返り、今後の地域福祉活動について考えを深めることができました。

今後、より良い地域福祉活動を推進するため、地区社協連協では皆さんと課題を共有し、共に解決するための取組みを一緒に考えてまいります。

安全・安心な食事サービスのために



6月17日(月)、各地区社協の食事サービス事業に関わる役員等約80名を対象に、地域福祉リーダー研修会を開催しました。

講師の福井県栄養士会 管理栄養士 野路 直美氏から、HACCPの考えを取り入れた衛生管理についてご講義いただきました。中でも、手洗いについては衛生的かつ効果的な方法として、流水で30秒以上洗うことや、手首の内側・側面・外側を洗うことなど、二つの動作のポイントを学びました。二度行うだけでも大変な動作ですが、この手洗いを二度行うことが基本です」と述べられ、手洗いの重要性を改めて再確認しました。参加者は、「今日の話を聞いてさらに衛生管理に気を付けたいと思った」と話していました。

他にも家庭で気を付けることもお話しいただき、普段から自宅でも衛生管理と食中毒予防を実践し、食事サービス事業にいかしたいという声がかれました。

これからも、安心・安全な食事サービスの実施に努めてまいります。

HACCPとは…Hazard Analysis Critical Pointの頭文字をとった言葉で、食品の安全を確保するための衛生管理手法のこと。

美山地区

食事サービス紹介



想いよ届け みんなでつなげる 手作り弁当



訪問時の様子

美山地区社協では、調理ボランティアの協力を得て、手作り弁当による食事サービス事業を年間20回実施しています。調理ボランティアは、現在11グループ延べ107人の方が参加しており、今年度から新たなグループが加わるなど、支援の輪が広がっています。

年度初めには昨年度の献立を振り返り、改善点や良かった点などを確認し、予め1年間の献立をすべて考えています。季節感のあるものや、旬の食材をできるだけ取り入れるように工夫しており、見た目にも体にも嬉しいお弁当になっています。

また、お弁当の配達には美山地区社協の取組みに賛同している29人のボランティアが登録されており、美山地区内6区域にお住まいの24人にお弁当を届けています。配達時には、「お元気ですか？お変わりないですか？」とお弁当は早めに食べてくださいね」と声掛けをし、不在時に備え、発泡スチロール製の箱と保冷剤を準備するなど、衛生管理と食中毒予防に配慮されていました。

たくさんの方の協力を得て届けられたお弁当は、利用者の方の笑顔につながり、お弁当を受け取った方は「いつもお弁当が届くのを本当に楽しみにしています」と話されていました。

20年前

福井豪雨 当時の様子

豊地区

取材協力:山内久子さん、北村はるみさん

復興における



被災から数日後、市社協担当職員と自治会型デイホーム専任職員でデイホームの再開の時期を協議しました。その際、「早くデイホームの仲間にあいたい!」「こんな時だからこそ、みんなの顔を見て安心したい!」「8月のデイホームは開催されるの?」など、地域の高齢者の声が専任職員のもとにたくさん集まっていました。参加者の声がデイホーム再開の後押しとなり、被災して2週間後には再開し、地域の復興を後押ししました。

被災後



仲間同士のネットワークで安否を確認!

被災後、夜になっても家の電気がつかないひとり暮らし高齢者宅があり、民生委員として心配していました。別の高齢者と会話の中で、気がかりだった方は県外の息子さんところに避難していることが判明。日頃からデイホームに集まる高齢者同士、連絡を取り合う関係を築けていたようです。

デイホームで早くみんなに会いたい!

発災直後



住民同士のネットワークで避難を呼びかけ!

民生委員として自治会長や近所の方々と一緒に、ひとり暮らし高齢者宅を訪問し、早めの避難を呼びかけました。足羽川の決壊後は、高台のおさこえ民家園に避難しましたが、日頃の訪問活動や地域の方々とのつながりができていたので、安否確認と避難者名簿の作成がとてスムーズにできました。

「平成16年福井豪雨」から20年

ふだんからの活動や横のつながりが、災害にも活かせる!

ふだんの地域福祉活動は、災害時の素早い対応につながると言われています。福井県に甚大な災害をもたらした平成16年福井豪雨から、今年で20年。今回は、被災した豊地区で対応された民生委員や自治会型デイホーム専任職員(現・地域支え合い推進員)に、当時を振り返ってもらいました。また、今年度、防災意識を高めた活動を行った地区の取組を紹介します。

皆さんも改めてこれからの活動と防災のあり方を考えてみませんか。



現在

福祉と防災が連携した取組

足羽地区・明新地区

足羽地区



足羽地区社協では、災害時に向けた対応を強化するために、「災害時の避難支援体制づくり」をテーマに、専門のNPO法人の方を講師に招き、研修を行いました。

講師の話で、洪水などの水害は、災害が切迫するまでに時間的余裕があることを再認識しました。高齢者避難が発令されたら、直ちに避難行動に移るよう声をかけようと思います。

足羽地区社協会長 宮崎 孝司さん

明新地区



灯明寺第8自治会担当の民生委員と福祉委員が、以前から気になる人がいたことから、総合防災訓練の前に、避難行動要支援者名簿をもとに、民生委員と福祉委員の2人で訪問しました。2〜3時間程かかりましたが、支援が必要な子どもがいる世帯の母親からは、見守りしてくれる方がいることに安心したという声が聞けたり、お互いの人柄も分かり、良好な関係を築けました。

明新地区民生委員 市橋 真紀さん

地区社協連絡協議会と市社協では、日頃、デイホームなどの活動を通じて、顔の見える関係や居場所づくり、声かけ見守り活動が、万が一の災害にも活かせることを意識し、各地区の地域福祉活動をサポートしていきます。



地区社協の活動と取組を紹介いたします

豊地区

「自らも健康で楽しく地域福祉活動」



豊地区は、昔から福井市南の玄関として発展し、現在ショッピングシティ・ベル等の商業施設をはじめ、福井赤十字病院などの医療施設も点在し、大変安心して暮らしやすい地区となっております。一方で、市街化区域の中では、高齢化率が33%と最も高い上、核家族化が進み、一段とひとり暮らし高齢者(65歳以上)が増加しているのも当地区の現状です。

さて、豊地区社協ではデイホームと見守りを兼ねた食事サービスを中心とした活動を行っています。特にデイホームにおいては、昨年からの地元の人クラブの協力も得ながら開催しています。地域支え合い推進員の熱意もあり、会場が満席になるほど、大変喜ばれております。また、豊小学校や市社協の協力もあり、今年の目玉として「子ども福祉委員」を立ち上げました。以前から続いている豊小学校4年生を対象にした福祉学習において、大型スクリーンで我々の活動を紹介し、子ども福祉委員への参加希望の挙手を求めたところ、10人弱が手を挙げてくれました。最終的には4人の子どもたちが福祉委員とし活動してくれてい

ます。活動に興味を持ってくれたことを大変ありがたく思いました。益々、福祉委員の助けが必要となっていく中で刺激になればと考えております。夏から秋にかけて4地区(花堂、月見、みのり、西木田)での合同研修や敬老会とデイホームの郊外研修などの行事も目白押しとなりますが、地域の高齢者が元気に喜んでいただけるよう自らも健康で楽しく地域福祉活動を進めていきたいと思っております。

豊地区社会福祉協議会
会長 山田 耕一



豊小学校での活動

宮ノ下地区

「住んでて良かった宮ノ下」「住みたくなるまち宮ノ下」

宮ノ下地区は、国道416号線天管生橋の開通とともに、福井医療大学や福井総合病院が新設されるなど、急激な発展を遂げています。また、「花でつるつるいっばい大咲戦」として、「コスモスを中心としたお花でいっばいの地域づくり」が展開されています。特に宮ノ下コスモス広苑では、10月にはピンクの絨毯を敷き詰めたいような素晴らしい風景が広がります。

宮ノ下地区社協では、自治会型デイホーム「コスモスサロン」を地区の4か所で実施しています。公民館でのデイホームでは、卓球バレーも楽しんでおり、そこに参加されている方で、年4回、試合にも出場するなど、目標をもつていきいきと活動されています。また、ひとり暮らしの方へのお弁当配布や敬老会、ふれあい福祉祭り、シルバーそば打ち体験会なども開催しています。多種多様な事業を展開することで、みんなが顔見知りの地域を目指し、大きな災害時でも不安なく過ごせることを目標としています。

宮ノ下地区社会福祉協議会
会長 小西 安一



デイホームでの様子

